

之人歸時各攜花籃果實食物社糕而散春社重午重九亦是如此

〔簠簋內傳〕社日 二月八月中前後近戊日也前後同日數退可前註神事凶

〔曆林問答集〕下釋社第二十七

或問社者何也 答曰尙書曆云社者歲之春秋可祀之社事土地之主也稷五穀之長也二月八月之中氣也二月爲春社八月爲秋社百穀實而稼穡成報德而祀之故春社者近於春分戊日秋社近於秋分戊日也各命民祭於土地將攘惡氣其戊土也故取其日祭也

〔假名曆註解〕社日 春ノ社日ニハ種ヲ蒔秋ノ社日ニハ五穀ヲ刈又日神ヲ祭ニ吉日ナリ

〔日本歲時記〕三月もろこしには社日とて春秋に二度土の神を祭る事あり土はよく萬物を養ひ五穀を生ず故に祭る春は農事の下からん事をいのり秋は其の恩德を報ずる意となんその日は立春の後第五の戊の日を春社とし立秋の後第五の戊の日を秋社とす十干の中戊己は土なるの日を用禮記にも仲春擇元日命民社とあり元日は吉日の意なり風俗通にいはいく共工の子を脩といふ遠遊をこのみ舟車の至るところ足跡の達するところ窮覽すといふ事なし故に祀て社神とす左傳にいはいく共工氏子あり勾龍氏といふ平水土故に祀て以て社とす禮記郊特牲に厲山氏の天下をたもつ時その子を農といふよく百穀をうゆ夏の衰ふるに及て周の棄繼之故に祀て以て稷とす共工氏の九州に覇たる時その子を后土といふよく九州を平ぐ故に祀て以て社とすといへり蔡邕がいはいく稷は百穀を播植ゆ稷は百穀の長なり故に稷を以てその神に名づくそれ社は土神なり稷は穀神なり土穀の神を祭る事は人民を生養する故なりもろこしにて社日には村民たがひに來往して酒食に醉飽すると見えたり張演が社日の詩にも家々扶得醉人歸と作れり又此日の酒よく豊を治む故に治豊酒と名づくと海録碎事に見えたりまた燕は春社の時にいたり秋社の時かへると月令廣義にあり